

第1回 岡山歴史研究会『岩屋城跡探訪会』

秋の深まった11月26日(土)、岡山歴史研究会では第1回歴史探訪会を岩屋城跡で行いました。地元関係者の皆様、美作中世山城連絡協議会の方々から並々ならぬご尽力、ご支援、ご協力をいただきました。心から厚くお礼申し上げます。

雲一つない小春日和に恵まれ、65名が参加しました。麓の「夢の広場」には地元岩屋城を守る会の北 恵兆会長をはじめ十数名による法被を着ての熱烈な歓迎を受けました。

当会顧問の山形省吾様、長瀧 薫様、岩屋城を守る会、北 恵兆会長以下会員の案内で急な坂道の岩屋城(標高483m)へ、陣城、土塁、慈悲門寺跡、山王宮参拝、竜神池を経て頂上へと登りました。馬場跡で守る会の方が運んでくれたボリュームたっぷりの弁当に舌鼓を打ち、山形講師から判りやすい岩屋城の説明を受けました。頂上の本丸跡、『落とし雪隠』という大絶壁、大堀切、そしてこの城でなんといっても素晴らしいのは『てのくぼり』と呼ばれる連続12本の畝状堅堀。規模も大きく圧巻でした。室町時代から争奪戦が繰り返されたとのこと、それだけに重要な山城。規模といい、保存状態といい、岡山県史跡の指定に叶ったことが良く判りました。

岩屋城を守る会の皆様の草刈作業等でのご苦勞に敬意を表します。命がけの作業になりますが“『落とし雪隠』と呼ばれる垂直に近い断崖がよく見えるようになれば”と思った次第です。

麓の広場では守る会の女性達による温かい甘酒の接待を受け、参加者ごぞって感激しました。到着から帰途に着くまでの間、至れり尽くせりで参加者は大満足の心地で帰宅の途につきました。

(岡山歴史研究会事務局長 山本 敦)